

「野球をあきらめて一般の社員として会社に
残った者、新しいチームに移った者、受け入
れ先を探しても見つからずに失業状態にいる
者、野球部が休部になって、みんな人生が変
わってしまったんだ」と教えてくれました。
その表情はどこか寂しそうでした。
「スポーツはすごくお金のかかるんだ。グラ
ウンドだって、土地を買うか、借りるか、しな
ければならない。手入れをするにもお金が必
要だ。コートにも給料を払わなければならな
い。試合をするとなると、相手を探したり、
場所を借りたりするのに人も人手が必要だ。チ
ームのレベルに合う仲間を集めるのだって、
実は大変な手間を必要とするんだ。自分のユ
ニフォームや用具以外にも、お金はたくさん
かかるんだ」と話してくれました。
「おまえたちの部活動は義務教育の一環だか
ら、何の心配もなくスポーツに打ち込めるん
だよ。税金でまかなわれているから、お金を
気にすることなく部活に集中できるってこと

さ。無理やり練習をさせられていると感じる
 か、よけいな心配をしないで練習ができる環
 境をありがたく思うか、じっくり考えて、辞
 めるか続けるか判断しなさい」と言いました。
 わたしは部活ができるのは当たり前のこと
 と思っていました。スポーツができる楽しさ
 よりも、練習の厳しさに嫌気が差していまし
 た。スポーツがしたくてもできない人たちの
 話は、わたしにはたいへん衝撃的な内容でし
 た。その人たちの苦しきから比べれば、練習
 が厳しいと言うなんて単なる甘えだ、部活が
 できるだけでも幸せなんだと思えてきました。
 わたしたちが放課後、当然のことのように
 行っている部活動ですが、父が教えてくれた
 ように税金によって成り立っています。グラ
 ウンドも体育館も、バスケットのゴールも、
 バックネットもすべて税金のおかげです。当
 たり前のように使っている施設や用具ですが、
 父や母、そして多くの人たちが出し合ってく
 れた税金の一部なのです。

わたしたちは部活動をするとき、多くの人
 たちの協力があるからということ忘れては
 なりません。税金を払っている人の中には、
 いろいろな事情で好きなスポーツをできない
 人々がいます。自分ができないのに、わたし
 たちのために税金を納めてくれる、その人た
 ちの気持ちを大切にしなければいけません。
 わたしたちが大人になったとき、納めた税
 金で次の世代の子どもたちがいろいろなスポ
 ーツを行い、体と心を鍛えます。次の世代の
 子どもたちが、部活動は厳しすぎる、練習は
 させられていると思いがら部活動をしてい
 ると知ったら、わたしたちは悲しく思うでし
 よう。
 同じように厳しい練習を無理やりさせられ
 ているとわたしたちが感じながら部活動をし
 ていると知ったら、大人たちはどう思うでし
 ようか。自分のやりたいスポーツもできない
 のにお金を払っている人がそのことを知った
 ら、税金を納めるのがばからしく感じてしま

うでしよう。納税は国民の義務の一つですが、納める人たちが気持ちよく納められるように、感謝の気持ちを忘れずに、わたしたちは部活動を行うようにしなければならぬと思います。わたしたちが一生懸命部活動をする姿を見た大人たちにも払った税金が役にっているな」と思ってもらえれば、前向きな気持ちで税金を納めてくれるようになるでしょう。わたしたちも「税金を納めてくれてありがとう」の気持ちになれば、より真剣な思いで部活に取り組めるでしょう。多くの人たちの支えを感じながら部活動に参加できるでしょう。税金は支え合いの仕組みです。納めるのも義務であると同時に、それを使うわたしたちも、将来社会に還元できる大人になれるように、心と体を鍛練する義務があります。「税金を納めて良かった」、「税金を納めてくれてありがとう」、その二つの気持ちが一体になることが大切なのだと思えます。